第３回 西脇市子ども・子育て会議　教育・保育部会　議事録

日　時	平成28年９月26日（月）　15時00分～17時00分
場　所	西脇市生涯学習まちづくりセンター　会議室２
参加者	瀧川委員　松尾委員　伊達委員（部会長）　仲田委員 藤原委員　堂本委員 カリキュラム策定委員（大前委員、増田委員、西田委員、増田委員、岸本委員、藤原委員） 事務局：　森脇教育部長、竹内学校教育課長 松本教育研究室長、杉本学校教育課主査 荒川学校教育課主査、清水こども福祉課長 鈴木こども福祉課主幹
議　事	⑴　西脇市就学前教育・保育カリキュラムビジュアル化カリキュラム最終報告について ア　経過 イ　各年齢担当からの報告 ウ　まとめと今後の課題 ⑵　その他
資　料	・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 資料１　西脇市就学前教育・保育カリキュラム（ビジュアル化カリキュラム）最終報告について 別添　西脇市就学前教育・保育カリキュラム(案)
傍聴者	１名

１．開会

２．議事

⑴　資料説明 ・西脇市就学前教育・保育カリキュラム　ビジュアル化カリキュラム最終報告について	
部会長	議事の１番　資料の説明を事務局よりよろしくお願いします。
事務局	平成27年度に策定した、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム(案)」ですが、今年度ビジュアル化カリキュラム作成するにあたり、各園の先生方の実践の中から出てきた言葉や表現の方法があるので、その言葉を追記したり、表現を修正したりした。また再度、

	言葉を整理し、文言や言い回しの統一も修正しているので、昨年度の分より変わっている所がある。 本日了承を得た後、最終的にまとめたいと思うので、御了承頂きたい。 経過説明を行う前に、第２回教育・保育部会での検討事項と、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム(案)」作成にあたって、本市が目指す就学前教育・保育の基本方針、目指すこども像、基本的な考え方、発達の目安について、説明をする。 検討事項の、「０歳児の捉え方について」説明をさせて頂く。本カリキュラムでは、「０歳児クラス」という年齢の幅を持たせた捉え方で考えている。０歳児の捉え方には、２つのパターンがある。 １つ目は、生後間もない頃から１歳の誕生日を迎えるまでを０歳児という。そして１歳というのは、初めての誕生日を迎えてから、２歳の誕生日を迎えるまでという捉え方がある。２つ目の捉え方は、「クラス」という考え方である。０歳児クラスという捉え方をすれば、入所した時の月齢が０歳児でも、生後３か月の子もいれば、すぐに１歳の誕生日を迎える子もいる。また、年度の途中で入園する子もいる。 「０歳児」というより、「０歳児クラス」という幅を持たせた捉え方で考えている。特に０歳児は月齢差が大きいので、月齢の高い子どもは、「心情のねらい」が十分に育んでいく中で、徐々に「意欲のねらい」「態度のねらい」に育ってくるように育ちの方向性を考える。月齢の低い子どもや途中入所の子どもについては、「心情のねらい」を十分に育んでいくことを意識して、年度末に向けて少しずつ「意欲のねらい」が育ってくるように育ちの方向性を考える。０歳児の捉え方については以上。 ２つ目に、本市が目指す、就学前教育・保育の基本方針ですが、別添の１ページを御覧ください。 【基本方針朗読】 ３つ目に目指す子ども像について。２ページをご覧ください。 目指す子ども像については、平成28年度兵庫県教育委員会が発行している「指導の重点」の幼児期の教育と、平成27年度第１回就学前教育・保育カリキュラム策定部会での、各園の園長先生方からの「めざす子ども像」の意見を基にまとめたものです。 具体的には、各認定こども園や幼稚園では、子どもの発達や学びの連続性をふまえて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の

	姿」をイメージし、４つ上げている。 　１つ目は、友だちと仲良く遊べること、２つ目は思いやりの心を育むこと、３つ目は、素直に表現できること、最後に意欲的に取り組むことができることである。 　そうした４つの力を身につけることで、学びの芽生えが育ち、自覚的に学んだり、生活したり、自立心を育んだりし、最終的に「生きる力」を育むことにつながると考えている。 　３ページを御覧ください。「就学前教育・保育カリキュラム」についてポイントのみ、説明をさせていただく。 （１）策定の枠組みについて 　ア「就学前教教育・保育カリキュラム」は、「０・１・２歳児用」「３・４・５歳児用」に分けて策定している。イの縦軸には、『保育の基盤としての「養護」』「生命の保持」と「情緒の安定」の２項目と『教育としてのねらい（育てたい・積み上げていきたいもの)』５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を心情・意欲・態度に分けて15項目から構成している。 （２）見方・考え方について 　イ「教育としてのねらい（育てたい・積み上げていきたいもの）について」説明させて頂く。 ４ページの上から５行目をご覧ください。 　ポイントであるが、子どもの発達は個人差・月齢差が大きい。そのため、各年齢（学年）で到達させなければいけない基準としてではなく、方向目標として何かに向かって保育を進めて行くかの方向付けとして捉えることが必要です。 　次に５ページをご覧ください。心情・意欲・態度の育ちの捉え方を図式している。 （３）各５領域については、ア～オを御覧ください。 （４）ビジュアル化カリキュラムついて 「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」をより具体的にイメージしやすいように、領域の表の形式をもとに、西脇市の各保育所・認定こども園・幼稚園から提供いただいた写真を使って、ビジュアル化したものを作成した。カリキュラムに示された遊びや生活を忠実に再現するためのものではなく、また、写真に写っている遊びや活動を取り入れて、実施しなくてはならないと捉えるものではなく、参考資料として活用できるように、作成している。 　「ビジュアル化カリキュラム」の活用方法としては、次のとおり。

	1つ目として、写真を通し具体的にイメージする。２つ目として、職員間での教育・保育の共通理解を図る資料とする。３つ目として、各クラスの年間指導計画を作成するにあたっての資料として活用する。 その下の※印、ビジュアル化カリキュラムの作成にあたり、０歳児クラスの写真は、低月齢児の歩行をし始める前の子どもの写真を使っている。それに合わせて「読み取り」は、低月齢児に合わせた書き方をしている。「保育者の役割」は低月齢児だけではなく、歩行をし始めた高月齢児も含めて考えている。 続いて「発達の目安」です。７ページを御覧ください。各月齢、年齢の発達の様子が具体的にわかるように母子手帳を指標にまとめたもの。「身体・運動機能の育ち」「言語面の育ち」「遊び・認識面の育ちなど」「生活面の育ち」の４つの項目に分けて示している。 次に資料１を御覧ください。 １つ目に経過としては、「就学前教育・保育カリキュラム策定委員会」を５回実施している。日程は、資料のとおり。中間報告後の内容について説明する。 第４回目は、アの０歳児から５歳児の整合性を検討する。 特に一番ポイントとなる「保育者の役割」の内容については、全体を見た時に内容が短い領域と、視点を踏まえて書けている領域とのバランスの差があった。具体的に保育者の役割が表記できるように検討していった。内容が短い領域は、他の年齢の領域を見ながら、言葉を補い整合性がとれるように作成していった。０歳児から５歳児の全体的な各年齢の発達に応じて、横（各年齢）の関わりを見ていった。 次に、イの各年齢の「保育者の役割」の内容について。文章表現としては例えば、３歳児の養護では基本的生活習慣が身に付くように「支援する」とある。どのように支援するのか、見守るのか、声をかけるのか、手を添えるのか、適切な言葉を使うことをアドバイザーの先生より助言をいただく。子どもの育ちを支えるための保育者の役割がより具体的に表現することができてきている。 ウの文言の統一について。「認定こども園教育・保育要領」に合わせて統一する。例えば、「かかわる」では、保育所保育指針は漢字（関わる）ですが、幼稚園教育要領と認定こども園教育・保育要領は、ひらがな（かかわる）で表記されている。このように、要領によって表記の違いがある。

	第５回目は、アの０歳児～５歳児の発達の一貫性についてチェックを行う。「自然物」「動植物」の言葉は、特に環境の領域で使っている。２歳までは「自然物」、３歳からは「身近な自然や動植物」といった表現の仕方の整理をしていく。また、「様々」と「いろいろ」の使い分けの整理をする。 写真の「読み取り」や「吹き出し」の表現を整合性が取れるようにまとめていく。イの全体のまとめは、最終的には委員全員で全部の領域を１項目ずつ確認していく。その後、修正点及び検討箇所を事務局でまとめ、アドバイザーの先生の御指導も頂き、最終まとめたものが、今回の「ビジュアル化（案）」として報告させて頂いている。報告については以上。
部会長	今の経過報告で、「教育・保育カリキュラム（案）」の全体の基本方針等の説明について、御質問とか確認したい事などありますか。
部会長	「０歳児」の説明というのは、誕生日を迎えるまでを０歳児と呼ぶのと、４月１日現在で０歳の子を一年間０歳児と呼ぶという２つの方法があって、４月１日現在で０歳のお子さんを３月31日まで０歳児と呼びますというこのカリキュラムでよいのか。
事務局	そうです。「０歳児クラス」としての捉え方です。
部会長	「０歳児」の説明というのは、この資料の中にもよく書かれているのでわかりやすくなっているかと思う。「『様々』と『いろいろ』を使い分けしました」と言われましたが、どのようなことか。
委員 （学識経験者）	「認定こども園の教育・保育要領」の中で、「様々」と「いろいろ」というのが出てきて、その「様々な」の後に出てくる文言を教育・保育要領の中には、「様々な」その後に続く言葉と、同じようにしている。「いろいろな」ものと書かれていたら、こちらも「いろいろな」ものとして使い、教育・保育要領と使い方を合わせた。
部会長	３番の養護の話で、新しい幼稚園教育要領では、養護の考え方が出てくると聞いたが、どうなのか。
委員 （学識経験者）	新しい幼稚園教育要領では、第１章のところで、養護の考え方が書き込まれる予定にはなっている。現段階で文言が出ているわけではないので、本カリキュラムはこれに基づいて作成している。
部会長	その辺も踏まえながら、新しい幼稚園教育要領、平成30年に施行になるのですね。平成29年度に発表となるので、平成29年４月になれば、そのあたりの文言も変わってくるのではないかという気がする。

部会長	次に、各年齢担当からの報告をお願いする。
事務局	本来ならば、０歳児の担当の先生には、０歳児の領域をすべて報告いただくのだが、時間の都合上一つの領域について、報告いただくこととしている。
策定委員	０歳児（人間関係） 16ページをご覧いただきたい。０歳児の人間関係について。0歳児の人間関係の保育者の役割を考えるにあたり、０歳児の発達を踏まえながら作成した。人間関係の発達としては、特定の大人との応答的な関わりにより絆が深まり、あやしてもらうと喜ぶ等、やりとりが盛んになる。身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとする。大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉がわかるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。 そのような発達を踏まえながら、その成長をより促せるような保育者の役割を、「心情・意欲・態度」に分けて表した。「心情」は、保育者との関わりを深め、喜びを味わえるようにします。「意欲」は、自分の意思で行動する意欲を育てるようにします。「態度」は、子どもと積極的に関わり、信頼感が持てるようにします。このような考えをもとに、より具体的に膨らませて、16ページの「保育者の役割」とした。
策定委員	１歳児（養護） １歳児の養護について。20ページを御覧いただきたい。 １歳児は、少しずつ自分のことを自分でしたい、という気持ちが芽生えるとともに、自分でしたいという欲求も高まってくる。その欲求を満たしていくとともに、生命の保持の左側の写真を選んだ。 食事はこぼすことも多いが、自分で食べたいという気持ちを大切にしている。「保育者の役割」としては、ゆったりとした雰囲気の中で基本的な生活習慣が身に付くようにし、生活や遊びの場を清潔で安全に整える、という役割になっている。 「生命の保持」の右側の写真を御覧ください。１歳児になると、大人の言うことが少し理解できるようになり、身振りや指さしなどを使いながら、一語分や二語文で自分の意思を伝えようとする。この子は、指さしで外が見たいと保育者に訴えたが、目線からは、柵であまり外が見えない。保育者が抱っこしてあげると、外が見えて笑顔になった。 次に、「情緒の安定」の写真を御覧ください。この子はまだあま

	りしゃべれないが、保育者は子どもの身振りで気持ちを読み取り、安心できるように声かけをしている。子どもが何か訴えた時に、受け入れてもらうと安心感につながる。 まだ話せない子もいるが、身振りや指さしなどからも子どもの欲求を読み取り、対応するようにしている。子どもの思いを受け止め、情緒の安定を図っていくことで信頼関係に発展していくとが大切だと思い、「保育者の役割」とした。
策定委員	２歳児（言葉） 30ページをご覧いただきたい。２歳児の言語の成長の特徴として、発声が明瞭になり語彙も著しく増加し、自分の意思や欲求や、触れたり感じたりしたことなどを言葉で表出しようとするようになる。 その上で、大人や友達との言葉のやり取りも進んでいく。強く自己主張する時期なので、したい事やして欲しい事を積極的に表出しようとする。また、模倣や大人と一緒に、言葉を使って簡単なごっこ遊びもできるようになる。絵本を読んでもらったり、自分で見たりすることから、イメージしながら絵本を読んでもらったり、見たり聞いたりすることをすごく喜ぶようになる。 それを踏まえて、「心情・意欲・態度」という３枚の写真を選んだ。２歳児の言葉の成長という部分において、自分の思いを言葉で表出し、伝えるという点が発達の上で浮き出てくる部分と捉えたので、「保育者の役割」も、特にその点を挙げている。 言葉のやり取りを楽しめるよう、保育者が適切に仲立ちとして関わること、また、やりとりのある簡単な絵本などを題材として、取り入れていくこと、保育者自身が子どもに伝えようとしていることをしっかりと受け止め、言葉や身振りでやり取りする中で、その子自身を十分に受け止め、充実感を得られるようにする事としている。
策定委員	３歳児（環境） 35 ページを御覧いただきたい。３歳児の特徴として、友達とのかかわりが増え、相手の気持ちが組み取れるようになり、社会性が高まってくる。言語能力の発達、そして自らの行動しようとする気持ちが芽生えてくる。大小、多少、長短や簡単な物の性質にも気付くなどの特徴を踏まえて、「心情・意欲・態度」の３枚の写真を選んだ。 「保育者の役割」では、自然物に触れ合う機会を作る中で、成長

	過程を観察し、そこから大小、多少や簡単な物の性質などに気を付けることが大切だと考えた。
策定委員	４歳児（健康） 39ページを御覧いただきたい。４歳児の発達の特徴として、簡単なルールや決まりを理解し、自分たちで考え、友達と一緒に楽しんだり、必要な生活習慣を理解し、見通しをもって生活できるようになる。 このような発達の特徴を踏まえ、作成した。「心情」は、友達と一緒に遊びを進めて行く中で、楽しさや達成感を味わえるように、子ども達同士で教え合いながら、あきらめずにやろうとする気持ちを受け止めていくことが大切だと思い、「保育者の役割」とした。 「意欲」は、子ども達が友達と一緒に遊んでいる中で、自分たちでいろいろと考えながら、遊びを発展させていけるように、どのような工夫をしたら、より楽しめるか子ども達が気付けるように声をかけたり、また子ども達の気付きを保育者が言葉で補ったりしていくことが大切だと考え、「保育者の役割」とした。 「態度」は、「手を洗おう」という絵を貼っている写真です。言葉の説明だけでは理解できなかったりするので、分かりやすく絵で表し自分たちで気付いて、丁寧にできるように環境設定し、「保護者の役割」を考えた。
策定委員	５歳児（表現） 49ページを覧いただきたい。５歳児になると、０歳から５歳児までの年齢に応じた保育者の役割というのが今回作成して、すごく大事だと思った。０歳児は、感情を表情で表現したり、手足を動かし全身で楽しんだり、１歳児は、興味があることに自らかかわって、保育者と一緒に表現すること、２歳児はいろいろな素材に触れる。生活や遊びの中で自分なりに表現すること。３歳児は、興味があることを自分なりにいろいろな方法で表現すること。そして４歳児になると、友達と一緒にイメージを膨らませるというところも出てきているように思う。それを踏まえて、５歳児は、友達と一緒にイメージを共有する、一緒に工夫する、感じたこと考えたことを共有し合って、共通の目的に向かってよりイメージを豊かにしていくことが大切になっていくという事を感じた。それで、「保育者の役割」の中に、友達と一緒にできるようなつながる心であったり、遊びを通して、共有できる時間や思いを出し合える場面であったり、そのような生活の場などを大切にしている。十分に環境づくりに取り組

	むとともに、友達同士でつながる時間を作る、場面を作る、空間を作るということで、「心情」「意欲」「態度」の場面で、３枚の写真を選んだ。
部会長	ありがとうございました。補足、ご質問など何かあれば。
委員	今の５歳児担当の報告であれば納得できるが。各年齢に一つの領域だけ報告されても、その整合性が全然わからない。今回が第３回目で、これを基にして、各園に持ち帰り研修をしなくてはいけない。保育者の研修をするためのカリキュラム作りなので。そうすると、発達の段階をふまえた中での報告でないと、このカリキュラムの全体が見えない。
部会長	５歳児だったら、０歳～５歳を踏まえての報告がしやすかったのだが、他の年齢は報告がしにくいのではないかと思う。これを基に、各園で作るベースになるものが作成できたとなった時に、本当に各園で作れるのかとなると、作成委員の方もまだ理解しきれてない部分もあるだろうし、今から研修をしていくのが次のステップになると思う。作成委員の方が、各園でこのカリキュラムの研修会をする講師となれる実力があるかというと、まだ決してそうではないと、理解しているが。
委員	３回～５回目の「カリキュラム策定委員会」の中で、されたことが０～５歳の整合と発達の一貫性のチェックと書いてある。そのことがこの会で全て報告してもらいたい。
委員 （学識経験者）	今日の報告は、本来であれば、最終的に０～５歳児まで育ちの連続性で、たとえば「健康」の領域だったら、こう育ってくる、「言葉」の領域でこう育ってくるというのが、望ましい報告形態であったかと思う。しかし、実際のところ、たとえば５歳担当の先生方は幼稚園の先生方を中心に、３・４・５歳児のグループで分かれて検討したが、まだそこまで深めていない現状があった。それぞれの自分の担当年齢のところを中心に責任を持って作成する時間がとれたが、一貫性は文言のレベルチェックで終わってしまっているというのが実情でもある。
委員 （学識経験者）	０・１・２歳児と３・４・５歳児の担当グループに分かれて、カリキュラムを作成していったということで、０歳児担当の先生は、１歳児担当の先生が報告されている時には、担当した年齢の報告が適切なのかとか、１歳児の報告をされている時に０歳児の先生はどうなのかを、それぞれが考えながら、担当グループの中で検討していった。０・１・２歳の整合性、３・４・５の整合性は取れている

	と思う。０・１・２歳児と３・４・５歳児の担当グループが分かれているのではなく、「全体の統一」をした時に、３・４・５歳児の担当の先生から、「２歳児では、ちょっとこれはハイレベルで、難しいのではないか」という意見が出てきた。自分の担当グループだけ責任を持ってするということではなく、縦のつながりもきちんできていたと感じている。
委員	これから各園で、このカリキュラムを基にして、各年齢の発達を捉えてここまでは揃えよう、最低レベルの条件は揃えようとしているのが今の西脇市でしょう。それぞれの園が勝手にするわけではないと思う。この部分の最低レベルはみんな揃えよう、そこから進むものはもっと進むことです。
部会長	最低レベルという事ではなく方向指針である。到達目標ではない。事務局は、その年齢のその子を教育・保育していくにあたっての方向指針であるという説明をされていた。今日報告された委員の方が園で、０～５歳児について、説明できるかというとそうではなく、時間的にも無理だと思う。その側面をピンポイントで捉えている写真なので、０歳といっても低月齢児と高月齢児がありますという説明がありましたが、これをどう読み取るのかというのは、もっともっと研修を積んでいかないと難しい。５回の策定委員会の数時間だけで、そこまで策定委員の方が理解し、人に説明するのは少し難しいと思う。
委員	園の主任と話をしたのは、例えば、「環境」なら０歳～５歳までのデータが出ている。これが実際に０歳～５歳にどうつながるのか。２歳～３歳にどうつながるのか。２歳～３歳の保育者の配慮がどうつながるのか。「環境」の部分について話をしたが、非常に難しいと言っていたが、そのことを、この現場でしないといけないと思う。
委員	一部見えやすく、皆さんにこういうのがありますよという例を示しながら、文章を見えるようにしていることで、いろいろな形があると思う。 「一緒に遊ぶ」でも、コマ回しをしても、縄跳びをしても「一緒に遊ぶ」になるので、その一部が示されているということである。子どもの実態にあわせていろんなことに取り組んでいる。子どもの実態を見ながら、それを、今この時点だったら、ここまで必要ということを遊びの中で教師が探っていく。その探った実態に合わせて、次何をしようかということにも目標を持ち、次の課題を見つけ

	て、それを子どもに遊びとして展開していくという形になる。 　目の前の子どもによって、１歳児でも、ものすごく広がりがあるし、個々に合わせていこうと思ったら、いろいろな遊びを取り入れていくのが実態になる。それぞれのクラスで遊びを選んでいく、示された遊びだけではなくて、クラスのカラーや発達段階の実態がある中で、その実態を把握しながら、遊びや環境を整えていく。 　友達関係が良好なクラスもあれば、そうではないクラスもある。このクラスは、どのような人間関係を作っていかないといけないのかという課題を見つけ、目標を見つけ、それに向かって、こうしたら人間関係がうまく出来るのではないかという見通しを持ってやっていく。それが例えばうまくいかない、それを実例で写真に撮るとそれを基に、みんなで研修するということが大事になってきて、教師、保育者の役割が見えてくる、ということを繰り返すことが大事である。その時その時で教師の役割も違ってくるので、いろんな角度から見ていかないといけない。そういう部分の一つの一例が上がっているということで、こういう形で研修を進めて行くと、見えやすいのではないかと思う。 　教師の役割は何とか、目的は何とかいう指摘を互いにし合うことが、研修になる。一つ一つ目的を持ってと言うが、スムーズにいくことはほとんどない。その時にいろんな問題が出てくる。どうするのかというのは、研修でいろいろな意見を聞くしかない。いろいろな人の意見を、このようなビジュアル化したものを、みんなに視覚的に見てもらい、「これをどうしたの」と聞かれた時に、「こうした」と返すやり取りをする中でいい方法を見つけていくということが、現実には本当に大切になると思う。このカリキュラムは、本当に見やすくなっているし、文章だけだと見逃してしまうことを具体的に捉えているので、みんなでビジュアル化したものについて、話あう、課題を出すということも提案されていますし、その中から伝え合う、先生の役割を考える、振り返ることに活用できると思う。
委員 （学識経験者）	先程の委員の問題提起を、私の方で整理させていただく。 　まず問題提起としては、発表の仕方の部分で５歳児の先生が「表現」、０歳から５歳について報告してくださった。それと同じようにほかの年齢でも、同じような報告をしてくだされば、発達の連続性というのが良く分かったのではないか。しかし実際の発表は、事務局で時間のコーディネートする時に、おそらく１人２分とか３分とかで発表する時に発達の連続性までの発表をすると、時間がとる

	と思われるので、５歳は最後の年齢なので、５歳ではこういう風に育っていくということの発表を任せようと、それ以外はそれぞれ分担してされたところを、こういう意図で、作成しましたよという発表にとどめておくという、時間の制約の中での発表であったのかと思われる。事務局の方で、どのようにして、発表の仕方をコーディネートされたかというのをご説明いただきたいと思う。
事務局	報告の時間の関係もありましたので、１人１分程度での報告をお願いしていた。本来ならば、０歳児の担当の先生には、０歳児の人間関係だけではなく全ての領域についてお話していただくこともありますし、いろいろな報告の仕方があったが、今回は、主に「保育者の役割」について、お話いただいた。一貫性ももちろん重要であるが、子どもと関わるにあたって、「保育者の役割」というのが大変重要ポイントになる。今回はその部分を深めていき、いろいろな言葉を組み入れ、子どもに関わる重要なポイントとして考えていったので、その中で深められたことを中心に報告いただいた。大切に考えたこととか、「心情・意欲・態度」の写真に関連して、どのような育ちを重視したかということも踏まえたので、このような報告の形になった。最後の５歳児については、０歳児から５歳児の発達があるので、そこを踏まえて報告をお願いした。
委員	結局は、「西脇市就学前保育・教育カリキュラム」を基本としてビジュアル化しただけであって、例えば、健康の「態度」を０歳児から順番に見てみると、寝返り、はいはい、伝い歩きと。１歳児になると、登る、降りる、跳ぶを身に付ける、と順番に書いてある。それを系統だてて、今度はビジュアル化として一端だけになっているでしょうが、一文を出している。このような方向で見ていかないと、これだけでは難しいと思う。このカリキュラムを基本として、各園で具体化されると思うが、それをしていかなければいけない。カリキュラムの一部分だけ捉えてしまうと、なかなか難しいので、このカリキュラムを基本として見ていかなければいけないだろうと思う。策定委員会に２～３回出席させていただいたが、本当に言葉の表現とかが大変であった。全体を見るところまでは、なかなか難しいと思う。これを各園で参考にして頂きたいと思う。
委員	大変な作業であり、策定委員の方が苦労されたことはよく理解している。策定委員の先生方は長く20年以上子どもたちに関わっておられる方たちなので、３歳児の発表は０・１・２歳　４・５歳も含んだ中での３歳児でないと。そのことを発表してほしいと思う。

部会長	年齢ごとでなく、領域ごとの０～５歳児ついての発表をしてほしかったということですね。
事務局	今年度の初めに「領域」ごとでグループを作るのか「年齢」で作るのかを提案させていただいた。年齢ごとの方が、カリキュラムについては、組みやすいのではないかということで合意し、また、園にも持ち帰りいただき、それでいくということになった。委員の通り、領域ごとの縦の系列というのも今後検討していこうと考えている。 ただ、公立の先生方と民間の先生方の集まりというのも初めてのことだったので、後半はコミュ二ケーションを図りながら進んだが、前半は事務局も戸惑いながらの状態だったので、なかなかそこまでいかなかったというのが現実。これで完成とは思っていないが、スタートいう意味で捉えている部分もある。これを軸として考えているので、大事なものとして取り扱っていきたいと考えている。
部会長	本日、ご承認いただいたら、次子ども子育て会議に上程するが、説明をするのなら「年齢」ごとより「領域」ごとの方がわかりやすいのではないかという意見か。
委員	０歳児～５歳児の整合性を検討したと書いてあるから、整合性が検討されたカリキュラムが出来ているのなら、この資料の整合性を見たいということである。
部会長	このカリキュラムに対する整合性か。
委員	園の主任は０～５歳の環境、保育者がどのように援助すればよいのかを理解出来ている。１歳児になったらここまで、２歳児になったらここまでと自分でも捉えている。
部会長	それが公の場で発表できるかどうかである。それぞれの園の発達過程の思いはある。それぞれの園が集まってきて協議の場で話すのはどうかと思う。
委員	このビジュアル化の写真に入れている。
部会長	その写真は、ピンポイントでしかすぎない。 仮に４歳児に同じ写真が使ってあっても､保育者の関わりは違う。それは今後の研修になる。 例えば、西脇市がおむつを外すのが何歳でしたとか、お箸を持つのが何歳でしたとか西脇市としては決めきれない。このようなところから各園の事情に合わせていく。子どもは何時に起きるのが正しくて、何時から何時までにお昼寝するのが正しいと。園の事情があ

	ったり、個人の事情があったりする。子どもにあわせて、私たち子育てするものは親も含めて修正をかけていかなければいけないので決められないと思う。生活習慣は特に。あくまでもピンポイントである。 　４ページのエの部分の、『年齢の１年の見通しや年間指導計画作成にあたっては、まずは年度当初は「心情のねらい」を育てていくことを意識し、年度終わりに近づく中で「態度のねらい」に示されたことが育ってくるように考えます。』と書いてある。誤解があるかなと思う。年間を通せば年間指導計画にあたっては、当初は「心情のねらい」であって、３月は「態度のねらい」になるのでしょうが、期のねらいになると、期の中で「心情のねらい」から「態度のねらい」にいくのですね。月のねらいになると、「心情のねらい」から「態度のねらい」にいくのですよね。今日の遊びの中でも「心情のねらい」から「態度のねらい」になるのですよね。という話なので、カリキュラムは奥が深い。その個に応じて、その個の心情をどこまで育てるのか、態度をどこまで育てるのかになってくる。 　次は５領域を中心にした研修にシフトしてほしいと受け取るのか、子ども子育て会議の時には、縦の０歳～５歳の整合性をもう少し重点的にお話ししてほしいというのか、年齢ごとの特性を訴えた方がいいのか、それとも次の説明会の時に０歳から５歳は繋がっているのだという事を西脇市としては、訴えた方がよいのか、その事は事務局に任せてもよいのか。縦は見ないといけないことではあるが。
委員	策定委員の方たちの努力は、子ども子育て会議では絶対に報告してほしい。
部会長	学年だけでなく､縦もしっかり見ているという委員さんたちの努力、苦労が分かる発表をしてほしいというご要望である。
事務局	基本的には策定委員会で決めていただいたことを、部会長に「子ども子育て会議」にかけていただくことになるので、年齢ごとを中心にして基本的に説明願いたい。
部会長	基本、本来は「年齢」でされているので、「年齢」ごとに説明し、その中で０歳児～５歳児の整合性を検討しますということですね。この件については、これでよいか。 次、まとめと今後の方向について。
事務局	まとめと今後の方向について報告させていただく。 　まとめとして、５点あげている。

	１点目は、平成26年8月に策定した西脇市就学前教育・保育の推進に関する基本方針に基づき、平成27年度と28年度の２年間、瀧川先生、松尾先生のご指導を仰ぎながら西脇市の保育所、認定子ども園、幼稚園の職員が集まりそれぞれの独自性や良さなどを踏まえながら討議を重ね、西脇市の就学前教育・保育の軸となるカリキュラムができたこと。 ２点目は、その年齢で育てたい「心情・意欲・態度」のねらいを押さえて、育ちの方向性を示す、特徴のある西脇市のカリキュラムとなったこと。 ３点目は、本カリキュラムをもとに分かりやすい写真を入れたビジュアル化カリキュラムを、本市独自で作成することができ、これを基に、今後各園の指導や研修につなげることができるということ。 ４点目は、各園の先生方に出席いただいて、討議を重ねる中で就学前の教育・保育で子ども達をどのように育てていけばよいかを、保育所や認定子ども園、幼稚園でしっかりと捉える一つの機会になった。 ５点目は、各園が互いに共通している所や違うところが分かり合えた。互いの良さを認め合い、補完しあいながら、同じ市内の子どもをしっかりと育てていくことが大事ではないかということを、先生方にしっかり認識いただけたこと。 今後の方向としては、３点ある。 1点目は、本カリキュラムは本日承認いただいた後、部会長より、「西脇市子ども子育て会議」上程していただき御承認を得たいと考えている。承認後は、本市は「西脇市子ども子育て会議」から答申を受け、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」を策定することになる。 ２点目は、来年1月にカリキュラム説明会を開催し、周知を図り、今後研修をして活用できるように広めていく。また、県の動向を注視しながら要領の改正等があった場合には、定期的に協議を持ち、カリキュラムの変更、訂正等を行っていく予定にしている。 ３点目は、本カリキュラムを基に、各園の独自性も活かしながら、魅力ある各園の教育・保育の実践に活かせていただきたい。
部会長	この西脇市がされている公立の幼稚園と民間の保育所保育士が集まって作っているカリキュラムですが、また学識の方が入って作成しているカリキュラムは、全国でも例を見ないことである。全国

	に先駆けて、公立の先生と民間の先生、幼稚園と保育園が一緒になってというのはないと思う。もっと自慢して良いと思っている。
委員 （学識経験者）	大きい自治体と違って、小さい自治体だから出来ていることだと思う。幼保の垣根をこえてやっていくというのが、今兵庫県自体も一生懸命やっていることでもあるので、自信を持って発表して頂いてよいと思う。
委員 （学識経験者）	民間と公立が一緒にやっていくことがいかに難しいかというのが実感としてある。民間と公立、幼保連携というのが西脇市独自といってもよいのかと思う。この西脇市だからこそできたものだというように捉えている。
部会長	本当にそう思う。この「心情・意欲・態度」のカリキュラムにしても、他市ではないですね。
委員 （学識経験者）	「心情・意欲・態度」というこんなに細かいものはない。市販されている本とか保育雑誌でも、ここまで事細かに現場の実践の知恵が詰まった形でというのは、類を見ないもの。内容上も含めてこれまで取り組んでこられたことに自信を持って、どんどん発信していったらよいと思う。
部会長	このカリキュラムの中身もだが、公立と私立が集まっていること、幼稚園と保育園が一緒に作成したことは、全国的にありえない事である。こんなに素晴らしいことを、西脇市がしてるいということは、自信をもって全国に発信して頂いたらいいと思う。策定委員の皆さんも、自負していただいていいと思う。
委員	民間の方へ、教育委員会が入る糸口ができたのでは。その糸口が、このようなカリキュラムを作って、上から下へおろすような仕方ではなく、これをもって教育委員会が下から入っていくしくみを作ってほしい。教育委員会も、カリキュラムをもっと精通して、全国の動向も踏まえて、きちっとわかったような人が保育所の中に入ってきて、保育士にどんどん理念とか方法とかを教えていけるようなシステムを、教育委員会で作ってほしいと思う。
委員	公立と民間とが一緒に作ったわけですから、基本を基に各園で同一性をもって作っていただいた点、それを教育に生かしていただく、何も強制じゃなし、共同で作り上げたものですから各園でその独自性を発揮しながら今後の教育に当たっていただければいいと思う。

委員	自分たちが勉強していきたいなとか、研究したいなとか思える雰囲気がそれぞれの園の中にあると、前に進んで行くのではないかと思う。
部会長	後何か、ございませんか。
委員 （学識経験者）	今後に向けてと考えた時に、カリキュラムを理解するのは本当に難しいものではあるが、各園でカリキュラムを改めて作っていく、構築し直していく、そのような中で大元になるカリキュラムと年間指導計画と月の指導計画と、どう繋げていくのか。また、月の指導計画や日の指導計画の具体的なところから、大元のところへどう繋がっていくのかということを各園、保育士、保育教諭がその意識をもって取り組んでいただけると、保育の質は実践上の言葉だけの質と違って、子どもたちをどう育てていくのかという方向性の質の担保はできていくのではないかと思う。 そのためには、研修体制を、市としてやっていく事も必要であるし、園として、できるところからやっていくことも必要ではないかと思っている。そのためには、教育委員会の中でこれに精通していただいた方が常駐で、一人ないし二人、保育の実地指導に行く時に、このカリキュラムに基づきながらできる方が、今後の人材育成として必要なこと思っている。その点を今すぐにできるものではないかもしれないが、西脇市の子どもたちのために、その方向を考えていただきたいと願っている。
委員 （学識経験者）	このカリキュラムを、丸暗記するようなものではなく、このカリキュラムを例えば０歳児、縦で割って研修するのか横で研修するのか、一部分を取り出して研修するのかというのは、各園の研修の方法があると思う。カリキュラムの中に出てこない、例えば、保護者との関係の研修など、いろいろな研修の方法があると思うので、このカリキュラムを基として、先生方がどう研修していくのかは、各園の独自性を活かしていただけたらと思う。 作成してくださった先生方は、苦労をしながら文言一つ一つ丁寧にひろいあげながらやってこられた。各年齢での責任を持って、私たちも一緒に考えながらしてきたので、そこの部分に関しては先生方がスーパーバイザーできるようになっている部分もあるのではないかと思う。ぜひこのカリキュラムを、縦横ななめに生かしていただけたらと思う。
部会長	事務局で修正箇所をまとめたものを、もう一度委員さんに提出いただき、それぞれのご意見を伺いながら、子ども子育て会議に向け

	て、製本していきたいと思うが、それでよいか。 　それでは､以上をもちまして、10月26日の「子ども子育て会議」に上程し、提案説明を行いたいと思う。
(2)その他	
部会長	最後の議題について、その他として事務局から何か。
事務局	10月2日、3日、4日と就学前教育・保育の説明会を開催させていただく。２日は、3:00から市民会館中ホール、翌日の３日は夜の部、7:30から市民会案中ホール、最終日４日は7:30からマナビータホールになる。この会については保護者の方、関係者の方、幅広く集まっていただき、新しい制度、募集要項等をご説明申し上げたいと思っている。参加の方、どうぞよろしくお願いいたします。
部会長	日程等の説明について､何かご質問はございませんか。それでは、これで終わらせていただく。

３．閉会　森脇部長挨拶